

地元の小学生が「未来の浜松市」をテーマに白熱ディスカッション！

SDGs を学ぶワークショップを開催！



8月6日、一般財団法人ピースコミュニケーション財団は世界の子どもたちが集まって未来の平和で豊かな世界について考える“ピースコミュニケーション”の場「国連を支える世界こども未来会議 in HAMAMATSU」のワークショップを静岡県浜松市で行いました。将来の浜松市の姿やそのために自分たちが明日から始められることなどについてアイデアを出し合うワークショップ型のイベントで、浜松市内の小学校4～6年生約20名が参加しました。SDGs（持続可能な開発目標）を達成する視点から「住み続けられる未来の浜松

市」をテーマに熱くディスカッションしました。

この日のイベントは認定 NPO 法人フェアトレード・ラベル・ジャパンの潮崎真惟子事務局長による世界を取り巻く現状やフェアトレードについての講義でスタート。その後、潮崎事務局長はグループに入って子どもたちのディスカッションを見守りました。

子どもたちは5つのグループに分かれて約4時間をかけてテーマについて考え、普段は別々の小学校に通う子どもたち同士で1つのテーブルを囲んで話し合いました。

最初は学校や企業でもチームワークづくりに活用されている『わたしたちのウェルビーイングカード』を使って「自分の幸せにとって大事なもの」を発表しながら自己紹介をしました。カードにはウェルビーイング（その人らしくいきいきと生きるあり方や心地よい状態）を実現するため必要なことが記載されており、子どもたちは「熱中」「挑戦」「生命・自然」といった自分自身の幸せにつながる言葉が書かれたカードを選んで挨拶。「しあわせには『生命・自然』が必要です。人がいないと始まりません」「私のしあわせに必要なのは『熱中』です。なぜなら“推し”がいるからです」など、各テーブルで笑顔もこぼれ、盛り上がりました。

自己紹介のあとは本題「住み続けられる未来の浜松市」について意見をぶつけ合いました。



コミュニケーションサポーターの大学生のサポートを受けながら、大事だと考えるカードを選んで自分の考えを発表しました。

『決まりを守る』ことと『友情』では『友情』が大事」「みんなが『決まりを守る』ことでしあわせに近づく」といったものや、「選んだのは『思いやり』。このなかには『友情』や『信頼』『自分らしさ』が全部含まれている」、「自分たちのことだけを考えるので

はなく、他の『生命・自然』も考えないといけない」など多くの意見が出ていました。

最終的にはグループとしての意見をまとめて発表しました。日系ブラジル人が多く暮らす浜松市の特徴に触れ、イベントに参加したり、普段から挨拶を交わすなどして交流しお互いを『信頼』していこうという意見、ポイ捨てをしないなど『決まりを守ること』で浜松市がきれいになるという意見、安心と安全が必要だとしそのためにはバスの優先席を譲ることなど『思いやり』と『決まりを守る』ことが重要としたグループ、『生命・自然』を挙げてうなぎやみかんの木、浜松城といった浜松市の魅力を守るために植林やリサイクルをしていこうという提案、「みんなの意見の『協調』『決まりを守る』『思いやり』を含めた『社会貢献』」が大事として「社会という言葉には、人間だけではなく動物や自然も含んでいる」と説明したグループもありました。

子どもたちの活発な意見交換でワークショップは予定した時間をオーバーしようかというほど熱をおびたものになりました。

参加した5年生の深津さんは「今までSDGsについてはそんなに興味がなかったんですけど関心を持ちました。普段はあまり気にしていなかった浜松市のごみ問題について知ることができました。話し合う中でチームワークが出来たのも良かったです」とにっこり。

同じく5年生の大石さんは「いろいろSDGsのことを考えられて良かったです。他の人の意見も聞けてもっとSDGsに対する意識が深まったと思います。こんなに楽しいと思わなかった。夏休みの思い出になりました」と話しました。



イベントの終わりに潮崎事務局長は、自身がした講義の一節を取り出して「みなさん1人ひとりが世界を変える力をもっているのを実感しました。これからSDGsを考える時、小さいレンズと大きなレンズ、近くにある問題と世界の問題、両方を見てみ给大家

い。自分に近い課題の方が見えやすいかもしれないけれど、遠くの課題に目をやることで、それが回りまわって返ってくる。課題の解決も返ってきます。そして、どうしてこの課題ってなくならないんだろうという視点を持ってください。素晴らしいみなさんなのできっと世界を変えられると思います。楽しみにしています」と期待を寄せていました。

一般財団法人ピースコミュニケーション財団の代表理事である一木広治は「今日はSDGsを考えるきっかけになったと思います。友達の意見や他の人の意見を聞いて話し合うというのを大切にしてほしいと思います。今日初めて会って話して、意見の対立もあったのに最後には協調してまとめることができたみなさんを見て、大人も学ぶところがあるなと感じました」と振り返りました。

浜松市は「いろいろな学校や学年の人が参加してもらいました。SDGsは目標ではありますが、未来について考えたりコミュニケーションを取る上で非常にいいきっかけになると思います。浜松市の未来を考える時に、SDGsをうまく活用していただければと思います」と、話しました。浜松市では9月8日まで、同じテーマでアイデアコンテストの作品を募集しています。

「国連を支える世界こども未来会議」は、2021年から毎年開催し2022年度からは国内

各地でも開催しています。現在は、内閣府こども家庭庁・外務省・東京都が後援し、2023年2月には国連からタイトルの認定を受けています。

7月には、キッズアンバサダーらが米ニューヨークの国連本部を訪れ、国際連合日本政府代表部中川周公使立ち合いのもと、3月に開催した「第3回国連を支える世界こども未来会議」の議論の結論をまとめたアイデアブックを提出しました。

2025年には、大阪・関西万博において第5回を開催する計画です。

◆国連を支える世界こども未来会議 in HAMAMATSU 開催概要

【イベントタイトル】国連を支える世界こども未来会議 in HAMAMATSU～SDGsを学ぶワークショップ～

【開催日】2023年8月6日(日)

【開催場所】浜松市地域情報センター

【主催】浜松市／一般財団法人ピースコミュニケーション財団

【後援】内閣府こども家庭庁／外務省